

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
410029	X-13-B-3-410029							
授業科目	担当教員							
卒業研究 4	石井 忠夫	2	ゼミ・卒研(後期)	【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1~3年次生】経営情報学部経営学科 【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × × 専門 専門 専門	× × × × 必修 必修 必修	×	×
				分野				

研究分野としては、情報化社会において基盤となる技術や仕組み、情報システムの設計に関わる理論、情報システムの構築、及び論理学などである。

目的と研究対象分野

- (1) 情報化社会において基盤となる技術や仕組み
現代社会において基盤となる技術や仕組みを調査研究し、その問題点や改善策を考察する。
- (2) 情報システムの設計に関わる理論
情報システムの構築に向けた要求分析と設計に関わる理論を修得し、現実世界の具体例に応用する。
- (3) 情報システムの構築
情報システム構築のためのプログラミング言語を習得し、現実世界で有用なソフトウェアを実装する。
- (4) 論理学
知的活動において規範となる論理学の基礎を修得し、卒業研究の推進に活用する。

研究内容

卒業研究 4 では、構築した情報システムの評価を目指し、実際に、卒業研究テーマの具体例で取り上げたシステムの実装を評価検討する。また、プログラミングの基礎として評価手法を学ぶ。

- (1) 構築した情報システムを評価する。
 - ① 当初のシステム構築のための仕様との整合性
 - ② 当初のシステム構築目的の充足性
 - ③ 想定した利用者から見た操作性や応答性
 - ④ 類似の既存システムとの比較
 - ⑤ 今後の機能追加に対応した拡張性
- (2) 評価は以下の手順で進める。
 - ⑥ 評価ケースは卒業研究 3 で検討したテストケースを元にして考える。
 - ⑦ 評価項目と評価結果からなるマトリックス表を作成し総合的に判定する。
 - ⑧ 評価の悪い項目については、再度見直しを行い改善策を検討する。
 - ⑨ 最後に情報システム構築の纏めを総括し、次回の構築に向けて評価結果報告書を作成する。
- (3) 本卒業研究 4 の成果として、正常に動作する完成プログラムとその評価結果を纏めた評価結果報告書を作成する。

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

【成績評価】プログラム評価の途中結果の発表態度が 40%、レポート課題が 20%、正常に動作する完成プログラムが 20%、評価結果報告書が 20% で評価する。

卒業研究活動についての留意事項

- ・情報コースの人を受け入れる。
- ・予備知識は特に必要としないが、基礎科目「論理と数理」を受講していることが望ましい。
- ・真剣に取り組める人を歓迎する。
- ・プログラムの開発に興味がある人を歓迎する。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
○	民間企業でのソフトウェア開発経験を有し、有益なシステム開発の方法について助言・指導する。	○

学習到達目標

自分で新しいテーマ（問題）を認識すると共に、その解決のために論理学やソフトウェア工学などの関連科目を習得し、対象をモデル化して自ら問題の解決を図る能力を養う。さらにその課程の中で自分が取り組んだ内容を的確に纏め、発表する能力を養う。

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	石川 洋	2	ゼミ・卒研(後期)	【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

A 分野・D 分野

目的と研究対象分野

情報技術者にとって必須である、ソフトウェア工学またはコンピュータ及びネットワーク技術に関連した分野から各自が興味のあるテーマを設定し、研究、開発、環境整備などを行う。その成果を論文としてまとめ、発表する。研究過程で必要になる情報、技術、環境については輪講、実習、自主的な調査などで習得し、レジュメを作成して発表する。

研究を通して、問題設定、問題解決、知識共有、知識伝達などの能力を養い、自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する。

研究対象分野

A 分野（情報とシステム）

D 分野（コンピュータと通信）

研究内容

限定はしないが、以下のようなキーワードに関連するテーマ設定を想定している。

A 分野（情報とシステム）

- ・ソフトウェア工学関連（Java、開発環境、オブジェクト指向、リファクタリングなど）
- ・形式仕様記述関連（モデルチェックツールによる検証作業など）

D 分野（コンピュータと通信）

- ・コンピュータ関連（各種アプリケーションの設計、実装、評価など）
- ・ネットワーク関連（サーバ設定、ネットワークプログラミング（サーバ・クライアント、サーバサイドなど））

いずれの分野においても、要求定義、設計のプロセスを経て実装を行い、さらにテスト、評価を実施することが望ましい。

卒業研究 4 では卒業研究 3 に引き続き以下の内容を実施する予定である。

- ・卒業研究テーマに関する調査・設計・実装・進捗などの報告
- ・論文執筆、発表練習

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究テーマに関する各種報告（20%）、目次案（20%）、添削過程（内容や回数）（30%）、発表資料の内容（30%）

卒業研究活動についての留意事項

- ・ICT 系の資格取得（取得済みの場合はさらに上位資格）をめざす意欲的な人を歓迎する。
- ・欠席する際は必ず事前に連絡すること。欠席した回は補講を行う。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	情報系企業での情報システム開発時における技術調査、報告書や仕様書の作成の経験を活かし、卒業研究の進め方を指導する。	×

学習到達目標

- ・自ら問題を設定し計画を立てることができる。
- ・情報を集めて考察または制作することができる。
- ・自らの見解を加えて記述し発表することができる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029	2 ゼミ・卒研(後期)	【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×	
授業科目	担当教員			×	×	×	
卒業研究 4	宇田 隆幸			×	×	×	
				×	×	×	
				専門	必修	4年	
				専門	必修	4年	
				専門	必修	4年	

分野

社会科学系データの分析と知識発見 (A・B・D 分野)

目的と研究対象分野

卒業研究では、各種データを取り扱う研究を行なう。適宜、コンピュータを利用する。キーワードとなる専門用語は、自然言語処理、人工知能、データベース、データマイニング、テキストマイニング、Webマイニングなどである。主に社会科学データを取扱い、人間社会に有用となる規則の発見やその応用を行う。たとえば、SNSからの話題を抽出、アンケートの設計や分析、近隣情報の収集と提供（観光、インフラの不具合、迷子ペットの情報統合システムなど）に関する研究を実施する。なお、テーマの内容によってはシステム開発が必要になる場合もある。学生は、これらに関連する分野から、各自の興味対象を選択して、卒業研究テーマを設定して、独自の発想や工夫を取り入れて研究・開発を行ない、成果を卒業論文としてまとめる。

- ・卒業研究 1 では、卒業研究を行う上で必要な知識の取得や学習を行い、卒業研究のテーマを決定する。
- ・卒業研究 2 では、各自で決定した卒業研究テーマについて、調査や制作および発表を行う。
- ・卒業研究 3 では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作および発表を行う。
- ・卒業研究 4 では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作を行い、研究成果をまとめて発表する。
- ・卒業論文では、各自の卒業研究テーマに関する成果をまとめて論文として作成し発表する。

研究内容

卒業研究 1 : 卒業研究に必要な基礎知識の習得と、卒業研究テーマの決定を行なう。

- ・プレゼン手法や論文の書き方および研究の進め方の学習
- ・プログラミング・自然言語処理・データマイニング等の分野について基礎知識の学習
- ・過去の研究テーマの紹介
- ・各自が興味を持った分野に関する調査と発表
- ・研究テーマの決定と計画書の作成（プレゼンおよびレポート提出）

卒業研究 2 : 各自決定した卒業研究テーマに関する調査と発表および制作と、就職や進学に関する情報交換を行なう。

- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・研究テーマに関する調査や制作
- ・大学生にむけて研究テーマに関する展示を行う
- ・4年生の大学祭における展示・発表を見る（レポート提出）
- ・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出）
- ・4年生の卒業研究発表会に参加（質問、レポート提出）
- ・就職に関する情報交換
- ・就職について4年生と懇談会

卒業研究 3 : 各自の卒業研究テーマに関する調査と発表および制作と、就職や進学に関する情報交換を行なう。

- ・春休みの研究成果と就活状況の報告
- ・研究テーマに関する調査や制作
- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・就職に関する情報交換
- ・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出）

卒業研究 4 : 卒業研究テーマに関する調査と発表及び制作と、研究成果のまとめを行なう。

- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・研究テーマに関する調査や制作
- ・大学祭における成果の展示・発表
- ・研究室内における成果発表会（成果報告の最終締切）
- ・卒業論文の執筆と添削
- ・卒業論文の発表の練習と本番発表
- ・卒業論文データベースへの登録

卒業論文 : 卒業研究の調査と発表および制作を行ないながら、成果をまとめて論文として作成し、発表を行なう。

- ・研究テーマ決定の計画書や、中間報告、成果報告の内容をまとめていく
- ・大学祭が卒業研究の成果作成の締切となるので、それ以降は論文を完成させる
- ・論文の提出、発表会での発表、データベース登録の3つが単位取得の条件となる

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究 1 : 参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究 2 : 参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究 3 : 参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究 4 : 参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業論文 : 論文(60%)発表(40%)により評価

（論文：新規性、独創性、有用性、完成度による。発表：内容、わかりやすさ、態度、質疑応答の的確さによる）

卒業研究活動についての留意事項

- ・プログラミングに関する卒業研究を行なう場合は、プログラミングに関する演習や講義を受講しておくことが望ましい。
- ・卒業研究の配属時に希望者が定員を超えた場合の選考は、(1)志願書の内容、(2)研究室訪問時の面接内容、(3)担当教員の授業の履修状況(4)情報処理演習の履修状況の順で判断する。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		×

学習到達目標

- ・自ら問題を設定し、計画を立て、情報を収集して考察・制作することができる。
- ・問題について、自らの見解を加えて論文として取りまとめ、発表することができるようになる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	安藤 篤也	2	ゼミ・卒研(後期)	【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
				分野	専門	必修	4年

情報コース

目的と研究対象分野

研究テーマの意義を理解し、問題の分析や議論を通して最終的に問題を解決する研究プロセスを体験すること、自分と専門が異なる分野の人にも理解できるプレゼンテーション技術を習得することを目的とします。

教員の専門分野の研究テーマは無線通信、アンテナ電波伝搬ですが、

研究テーマはこれに限定されるものではなく、

教員の専門分野以外の研究テーマについては学生の企画・提案を基本とします。

研究内容

「卒業研究1~4」および「卒業論文」の研究テーマの内容は以下の様になります。

研究テーマは教員の専門分野の研究テーマと非専門分野の研究テーマの2つから選択します。

■専門分野の研究テーマ

- (1) メタマテリアルのアンテナ高周波デバイスへの応用
- (2) RF-IDタグとセンサーを用いた計測システム
- (3) 水平偏波マルチバンド無指向性アンテナ
- (4) 多重波伝搬環境での無線アドホックネットワーク用アンテナの特性評価
- (5) 小セル無線ゾーンシステムでのアンテナ特性推定法
- (6) 第5世代(5G)・Beyond 5G用基地局アンテナ
- (7) 地中埋設設備からの電波伝搬
- (8) 電磁結合給電パッチアンテナの偏波特性
- (9) 携帯無線機用マルチバンドアンテナ
- (10) 上記以外の新規テーマ

■非専門分野の研究テーマ

- ・学生からの研究テーマの企画・提案を基本とします。
 - ・研究テーマ企画段階では研究テーマのリサーチ方法を指導します。
 - ・研究テーマ進捗段階では研究としての論理の流れの妥当性、プレゼンテーション技術(発表と論文作成)を中心に指導します。
- テーマに関する予習・復習に1時間ずつ必要。

成績評価

計算機を使った電磁界シミュレーションで何等かの結果を得ていること(50%、専門テーマ)、研究テーマの選定が適切であり、検討プロセスの論理展開に無理がないこと(50%、非専門テーマ)。自分と専門が異なる分野の人にも理解できるプレゼンテーションができるること(50%)。

卒業研究活動についての留意事項

- ・計算機を使った電磁界シミュレーションとアンテナ試作による実験的検証が中心です
- ・無線やアンテナに関する経験知識は不問です
- ・他の分野に比べ検討に時間を要する研究分野なので、粘り強くコツコツと積み上げができる人が適正
- ・ボランティア精神があつて周囲に配慮できる人を歓迎します
- ・自身のキャリア形成を意識した社会的な行動を期待します

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
○	企業において無線通信システムの研究開発の経験を有する教員がデバイス開発の理論と実際を解説する	×

学習到達目標

(1) 研究テーマの意義を理解していること (2) 問題の分析・議論を通して最終的に問題を解決する研究プロセスを完遂していること (3) 自分と専門が異なる分野の人にも理解できるプレゼンテーションができること

JABEE

関連する学習・教育到達目標: F

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンパリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029						
授業科目	担当教員						
卒業研究 4	上西園 武良	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1・2年次】国際学部国際文化学科 【3年次以上】国際学部国際文化学科 【3年次以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1~3年次】経営情報学部経営学科 【1~3年次】経営情報学部情報システム学科 【4年次】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × × 専門 専門 専門	× × × × 必修 必修 必修	× × × × 4年 4年 4年
分野							

B分野

目的と研究対象分野

本研究室では、私たちの日常生活の中で「使いづらい」や「快適に使えない」と感じられる「モノやシステム」を取り上げ、人間工学の手法を使って解決策（=人の特性により合っている）を見出すことを目的とする。

研究対象は、自分自身で「使いづらい」や「快適に使えない」などの実感がある「身近な製品（家電、家具など）」や「身近な公共物（学校、駅、公園など）」等とする。自分自身の実感のないテーマでは研究に対するモチベーションが低く、困難に遭遇した時に挫折しやすいためである。

研究の進め方としては、まず当該対象に関する文献調査を徹底的に行い、既存研究でどこまでなされているかを明確にする。この結果に立脚して各自の仮説を設定する。さらに、設定した仮説の検証に当たっては、実験（または調査）に基づいて行う。従って、本研究室では実験（主に被験者実験）主体の研究となる。

研究（課題解決）を進めるにあたっては QC（品質管理）手法が有効であるので、本研究室では QC 手法の習得と実践を行う。

【対応するディプロマポリシー】

- 健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。
- 情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。
- 仕事の仕組みをシステム的に考え、データを重視した論理的な判断ができること。
- 自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。

研究内容

(1) 研究の流れ

卒業研究 1~4 を通じての全体の流れは以下のようである。

①研究フローの学習

②研究テーマの設定

③文献調査によるテーマ遂行可能性の判断

④仮説の設定

⑤予備実験による仮説の事前検証

⑥本実験による仮説の検証

⑦論文の執筆、発表資料の作成

(2) 卒業研究 1 : 研究フローの学習

・与えられたテーマについて一通りの研究フローを実施し、研究の流れを学習する

(3) 卒業研究 2 : 研究手法の獲得、研究着手

・研究テーマの設定 :

自分自身で「使いづらい」や「快適に使えない」などの実感があるテーマを見出す。

・文献調査 :

文献調査によって当該テーマについての過去の研究例を徹底的に調査し、当該研究テーマの遂行可能性を判断する。「既に解決済」や「研究の余地無し」の場合は研究テーマを再設定する。

・仮説の設定 :

文献調査の結果に立脚してオリジナルな仮説を設定する。

・予備実験による仮説の事前検証 :

少人数（5~10名程度）の被験者実験により仮説の事前検証を行う。仮説を否定する実験結果となった場合は、実験方法の見直しあるいは仮説の再設定を行う。

(4) 卒業研究 3 : 研究遂行

・本実験による仮説の検証 :

20~30名の被験者実験を行い、仮説検証の精度を向上させる。

(5) 卒業研究 4 : 研究成果のまとめ

・卒業論文の作成、発表

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

自主的に研究を推進できる能力、与えられた制約下で計画的に研究を実施できる能力、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力、および、卒業論文の内容、卒業発表の内容を総合して評価する。

・卒業研究は、①日常の研究態度と研究への取り組み姿勢（60点）、②報告・発表の出来具合（40点）により評価する。

・フィードバック：学生各自と面談を実施し必要なフィードバックを行う

卒業研究活動についての留意事項

・当研究室を志望する場合、事前の研究室訪問を必須条件とする。

・採用基準は、第1基準「志望動機の強さ」及び第2基準「学業成績」とする。

・研究室活動として、本来の研究遂行と並行して「社会人としてのマナーの育成」を重視する。

・授業は定時（9:00）に開始する。遅刻は「社会人としてのマナー」として失格であるので厳禁とする。

・病気等で授業に出席できない場合は、事前に欠席理由をメール連絡することを必須とする。余程の理由（例えば、メールもできないほどの重病など）がない限り、欠席の事後連絡は「社会人としてのマナー」として失格である。

・授業欠席の場合は、欠席分の補習を別の日に実施する。

・被験者実験は他の人の協力なしには行えない。各学年の研究室生（10名程度）同士だけで相互に被験者となるだけでは人数が不足があるので、他学年の研究室生にも被験者の役割を担ってもらう。このため、他学年同士の交流を重視する。

・卒業研究もひとつの課題解決である。課題解決のために有効な手段として QC 手法を用いる。このため、全員が 3 年前期で QC3 級の資格取得を目指す。"

実務経験のある教員による授業科目 有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	大学赴任前の企業にて、人間工学を活用した製品企画・開発（家庭用の機器）に約 10 年間従事していた。卒業研究では、人間工学に関する研究テーマを実施しており、実務経験を生かした指導を行っている。	×

学習到達目標

- 課題発掘能力の獲得：自らテーマを設定し、「その研究を行う意義」と「研究の位置付け」を明確にことができる。
- 課題解決能力の獲得：自らの課題解決に当たり、「必要な情報入手」や「適切な手法（実験方法、調査方法など）の入手・実行」を通じて、問題解決が行える。
- コミュニケーション能力の獲得：わかりやすい資料で、適切なプレゼンテーションが行える。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	河原 和好	2	ゼミ・卒研(後期)	【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

D 分野

目的と研究対象分野

河原研究室ではコンピュータを用いて画像等を取り扱う研究を中心に、関連する研究を行なっています。情報技術の利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できるような研究を目的としています。

具体的には、画像処理、コンピュータビジュアル、画像作成（コンピュータグラフィクス）、パターン認識（画像認識）などの画像に関する研究や、その応用であるWeb作成やロボット・IoTに関する分野が研究対象となります。さらに関連分野として、アプリ作成やゲーム作成などのプログラミングや、画像から対象を音声に変更した音声処理・認識や音楽などに関する研究も対象としています。

「卒業研究1～4」では、これらに関する分野から、各自が興味を持った卒業研究テーマを設定し、独自の発想や工夫を取り入れて研究や開発を行ないます。自主的、計画的に情報を集める必要があります。

「卒業論文」では、研究で得られた成果を考察し、自らの見解を加えて卒業論文としてまとめ、発表します。

研究内容

「卒業研究1～4」および「卒業論文」の内容は以下の通りです。

必要に応じて、学外イベントやコンテストなどへの参加を行います。

「卒業研究1」では、卒業研究を行う上で必要な知識の取得や学習を行います。特にプログラミングは重要となるため主として学習していきます。

- ・プログラミングに関する基礎知識の学習
- ・プレゼンテーション手法や研究の進め方の学習
- ・研究テーマの検討・発表・グループワーク
- ・プログラミングコンテストへの参加

「卒業研究2」では、卒業研究のテーマを決定するため、各分野における基礎知識の学習と、それに関する調査や制作および発表を行ないます。

- ・プログラミング・画像処理・画像作成・Web・ロボット等の分野について基礎知識の学習

・過去の研究テーマの紹介

- ・各自が興味を持った分野に関する調査と発表
- ・研究テーマの検討、グループワーク
- ・大学祭において研究テーマに関する展示を行うので、その準備
- ・4年生の大学祭における展示・発表を見る（レポート提出）
- ・研究テーマの決定および発表、研究計画の作成
- ・4年生の卒業研究発表会に参加（質問、レポート提出）
- ・就職に関する情報交換、グループワーク、4年生と意見交換

「卒業研究3」では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作および発表を行ないます

- ・春休みの研究成果と就活状況の報告

・研究テーマに関する調査や制作

- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・就職に関する情報交換、グループワーク

・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出）

「卒業研究4」では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作を行い、研究成果をまとめて発表します

- ・夏休みの研究成果と就活状況の報告

・研究テーマに関する調査や制作

- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・大学祭における成果の展示・発表

・研究室内における成果発表会（成果報告の最終締切）

・卒業論文の執筆と添削

・卒業論文の発表の練習

・卒業論文データベースへの登録作業の確認

「卒業論文」では、各自の卒業研究テーマに関する成果をまとめた論文を執筆します

- ・大学祭と成果報告会が卒業研究の成果作成の継続となるので、それ以降は論文を完成させます

・論文の提出、発表会での発表、データベース登録の3つが単位取得の条件となります

【毎回予習・復習合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究1：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、課題(30%)により評価。

卒業研究2：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、課題(30%)により評価。

卒業研究3：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、課題(30%)により評価。

卒業研究4：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、課題(30%)により評価。

卒業論文：論文(60%)発表(40%)により評価。

（論文：新規性、独創性、有用性、完成度による。発表：内容、わかりやすさ、態度、質疑応答の的確さによる）

それぞれの項目についてはその都度講評を行う。

卒業研究活動についての留意事項

・プログラミングに関する卒業研究を行なうことが多いので、プログラミングに関する演習や講義を受講しておくことが望ましい

・画像に関する卒業研究を行なう場合は、関連する授業を受講しておくことが望ましい

・学外イベントやコンテストなどへの参加をすることになるので積極的に参加する姿勢を希望します

・「卒業研究」の配属に関する情報は河原のウェブページに掲載するので確認してください

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

学習到達目標

・自ら問題を設定し、計画を立て、情報を収集して考察・制作することができる

（卒業研究1～4の参加態度・報告発表・課題により評価）

・問題について、自らの見解を加えて論文として取りまとめ、発表することができるようになる

（卒業論文および発表により評価）

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
410029	X-13-B-3-410029							
授業科目	担当教員							
卒業研究 4	今井 裕紀	2	ゼミ・卒研(後期)	【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1~3年次生】経営情報学部経営学科 【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × × 専門 専門 専門	× × × × 必修 必修 必修	×	×
				分野				

経営における人と組織

目的と研究対象分野

本ゼミナールでは、人と組織に関する経営課題、社会課題に関連したテーマを各自が設定し、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになります。

研究対象分野は経営学における、人間の行動や、経営組織のマネジメントについての研究です。この分野における研究の例としては、ワークライフバランスの実現や、多様な人材の活躍推進およびキャリア形成支援、職場定着支援、ストレス、動機づけ、リーダーシップなどが挙げられます。人と組織に関する研究では、その研究が現在の企業経営や社会の課題解決にどう役立つかが重視されます。このゼミナールでは、経営や社会の諸課題とのつながりを意識しながら、各自が関心を持つテーマを設定し、研究します。

研究内容

主な進め方は以下になります。

- ①社会科学における基本的な研究の方法論について学ぶ。特に統計の基本的な使い方を学ぶ。
- ②人と組織に関する経営課題、社会課題について理解を深める。
- ③研究テーマを発表し、意見交換する。
- ④調査、分析の方法について意見交換する。
- ⑤結果について発表し、意見交換を行う。
- ⑥研究の進捗を適宜レポートにまとめて提出する。

統計の使い方については、別途テキストを指定します。

このほかに、経営課題や社会課題を分析した論文や書籍を題材として、文献要約・発表などを行うことがあります。

主に指導可能な研究の方法

- 1) 公開資料にもとづく調査、分析（白書、有価証券報告書、政府統計や各種報告書などを用いた分析）
- 2) アンケート調査（心理、社会心理、組織心理などに関連する内容を調査し、統計解析する）

【授業前・後の学習】

- ・関心のある経営問題等について白書や各種報告書、政府統計などを用いて調べ、研究テーマを構想する。
- ・研究の方法論について復習し、理解を深める。
- ・各自が考えたテーマの研究に必要な調査を行う（アンケート調査、政府統計などの公開資料による調査など、テーマに適した調査を行う）。
- ・卒業論文を執筆する。

成績評価

クラスへの参加、ディスカッションへの貢献（40%）、発表（30%）、レポート（30%）

卒業研究活動についての留意事項

意見交換を行う際には、互いの研究テーマやアイデアをよく聞いて参考にするとともに、意見を積極的に述べてください。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

学習到達目標

研究プロジェクトの計画を立て、進捗を自ら管理し、進めることができること。

研究テーマの設定根拠、調査・分析方法の妥当性、結果、考察内容について論理的、客観的に説明できること。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	桑原 悟	2	ゼミ・卒研(後期)		×	×	×
				【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
					専門	必修	4年
					専門	必修	4年

分野

A : 情報とシステム

目的と研究対象分野

この授業は、情報文化学部のディプロマポリシーの一つである、『自主的計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること』を実現するための授業の一環である。

研究対象：教育、産業、地域などに関係する情報システム又はその要素

研究内容

卒業論文作成のための研究（アプリケーションシステムの設計、作成（プログラミング）及び評価、或いは、情報システムに関連した事項の調査、分析、考察、提案の検討）を行う。

01)これまでの研究成果の確認

02)各自の研究活動

03)各自の研究活動

04)各自の研究活動

05)各自の進捗の報告

06)各自の研究活動

07)各自の研究活動

08)各自の研究活動

09)各自の研究活動

10)各自の研究活動

11)各自の研究活動

12)各自の研究活動のまとめ

13)各自の研究活動のまとめ

14)各自の研究活動のまとめ

15)各自の研究活動のまとめ

【授業時間以外に、各自で、15 時間の研究活動を行う。】

成績評価

論文作成のための研究の中間成果物、報告、発表などで評価します。

S : 目標水準を大きく超えた場合

A : 目標水準より優れている場合

B : 目標水準を十分満たした場合

C : ようやく目標水準に達した場合

D : 目標水準に達していない場合

遅刻、欠席、その他努力を怠った場合は、減点します。

卒業研究活動についての留意事項

特になし

実務経験のある
教員による授業
科目有無

×

実務経験と授業科目との関連性

アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施

○

学習到達目標

卒業論文作成に十分な水準のアプリケーションシステムの設計、作成（プログラミング）及び評価、或いは、情報システムに関連した事項の調査、分析、考察、提案の検討 を行う。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	小林 満男	2	ゼミ・卒研(後期)		専門	必修	4年
					専門	必修	4年
					専門	必修	4年

分野

A分野・C分野

目的と研究対象分野

現在、企業は高齢化・少子化の進展により社員の確保・技術継承の問題、規制緩和等による競争の激化など多くの課題に直面しており、特に、地球温暖化と関連して環境問題や自然を含めた大きな視点から経営をとらえる必要に迫られています。そのため企業や国・自治体においては、これらの課題を克服する構想をあたため具体的な解決をもたらすソリューション能力が求められています。そこでは情報や情報システムの開発・利活用がひとつの鍵を握っていると考えられます。

卒業研究では、自然科学や社会科学にとどまらず、人文科学も含めた学問を総動員しながら、社会とのかかわりを重視しつつ、経営・組織・情報システムの面から卒研生が選定した研究テーマについて主体的に進めさせていただきます。そのため、最初にA分野（情報とシステム）とC分野（経営と組織）全員によるリサーチリテラシー（研究方法論や卒業論文の書き方）について基礎的な学習と演習を行った後、夫々の卒研生から研究テーマに関連する先行研究、参考文献について要約報告してもらい、卒研生全員で共有します。これらの作業と併行して個別に論文作成指導を実施します。

研究内容

[研究テーマ]

- ・企業や各種団体における情報及び情報システムの戦略的利活用に関する研究
- ・下記のキーワードに関連する卒研生が希望するテーマの研究
(キーワード)
企業戦略、経営組織、人的資源管理、情報及び情報システムの利活用、防災・減災、地域創生研究他

[研究内容]

- 研究テーマに関連する先行研究の調査、卒業論文のイメージづくり（成果物：中間報告会資料（執筆中の卒業論文案）
(自動的に研究を進めて頂きます。個別に論文指導を行います)
- ・各自の研究テーマに関する検討状況の報告と討議
- ・研究の進捗報告、夏期合宿（8月下旬）・中間報告会（10月中旬）
- ・論文を執筆する
- 卒業研究の振り返りを行う（成果物：リサーチパネル、後輩へのメッセージ）
(注) 講義毎に「卒研進捗報告書」の提出を求めます。
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

授業の取組（卒研進捗報告書、発表における討議など）と自ら問題を設定し、計画的に研究を進める能力及び卒業研究の振返り（40%）及び中間報告会資料（執筆中の卒業論文案）の内容と発表、ディスカッション（60%）を評価する。

<フィードバック>

講義の中で、学生が執筆した卒研進捗報告書及び卒業論文（中間報告）等の記述例をとりあげ講評する。

卒業研究活動についての留意事項

卒業研究では、「健全な社会生活を営むための常識を持ち、地球的な視点から多面的にものごとを考え、他者と協力して問題解決にあたることができる」とめざすので、研究室として取組む地域活動、夏期合宿（4年生）、懇親会（茶話会）には積極的に参加してください。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	情報通信システムの開発、運用及び法人営業マネージャとしての経験をふまえ、個人、組織、社会の視点からICTの利活用等の研究を指導する。	○

学習到達目標

自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または自らの感想を加えて論文としてとりまとめ、発表する能力を育成する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	小宮山 智志	2	ゼミ・卒研(後期)		専門	必修	4年
					専門	必修	4年
					専門	必修	4年

分野

人間と社会

目的と研究対象分野

人々の行動や考え方を“人ととの関係（社会）”に着目して“研究”することを目的とします。また社会でもっとも求められている「集団で目標を達成する能力」をお互いに協力して高めます。

「学校」が既存の情報・知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する（=研究する）能力を身につけるところです。人々について新しい情報を創りだすには、他者の視点を取り入れる必要があります。社会で役立つ卒業研究を行うために、そして卒業後、活躍するためにゼミの仲間や、さまざまな人々と協力することを学びます。研究例を一つ紹介します。

研究例：ある食品メーカーの製品では、アレルギー表示がパッケージの前面に「アイコン」で表示されています。このアイコンは、単にアレルギーを持っている方だけでなく、消費者一般に製品の安全・安心感を伝えることができ、購買を促進していることを明らかにしてくれました。紅翔祭で一般の方に2種類のパッケージを実際に見てもらいたい調査しました（彼はこのメーカーに就職しました）。

*他にも小宮山のホームページ (<http://www.nu.ac.jp/~komyama/>) に研究例が紹介されています。

研究内容

調査・分析等を行います。またお互いの草稿をテーマに、グループワークを行い、卒業研究を完成させます。また発表会の練習をとおしてプレゼンテーション能力を高めます。各月ごと、以下の予定で進めます。

9月 調査・実験

7月に計画した調査・実験を9月中に、実施しデータ入力を終わらせます。

卒業研究4の時間では、グループワークを通しての最終確認や、データ入力方法・チェック方法（データクリーニング）について学びます（9月末までにデータの提出）。

10月 分析

分析結果を持ち寄り、グループワークを行います。擬似相関の可能性など、グループで討論し、全体で共有します。各自、グループの意見を参考に、分析をより良いものにします（10月末までに分析結果の報告）。

11月 残りの章の執筆（11月23日仮提出 11月30日提出）

11月前半で、分析・結論などの残りの章の執筆を行います。各自草稿を交換して読み、アドバイスをします。

11月23日までに仮提出していただいたものにコメントします。11月30日には訂正して再度、提出してください。

12月 論文訂正と発表資料の作成・発表練習

卒業研究発表会の発表資料作成と練習を行います。資料作成時に浮かんだアイディアなどを論文に盛り込み提出日に、提出します。12月中には発表資料を完成させます（その後、発表練習をする時間が必要です）。

1月 発表会と振り返り

発表会に参加しての振り返りのグループワークで行います（振り返リシート提出）。

【事前・事後学習】毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を行なってもらいます。

成績評価

各回のグループワークでの活躍（50%）と、毎月のレポートで評価します（50%）。グループワークでアイディアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイディアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン（50%ずつ）で評価します。

共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、さらにグループワークを通して、フィードバックします。

卒業研究活動についての留意事項

*ゼミにおいて無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。

*虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

学習到達目標

1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。

2. 新しく、社会に役立ち、根拠のある情報を創りだしてください。

3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	宮北 和之	2	ゼミ・卒研(後期)	【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

A 分野（情報とシステム）、D 分野（コンピュータと通信）

目的と研究対象分野

卒業研究では、身近に潜む問題点を指摘し、それを解決するための手法を考え、実際にコンピュータを用いた最適化やアプリの製作等を行うことにより問題の解決を目指す。研究分野として、コンピュータ、ネットワーク、シミュレーション、アプリ開発等に関連するものが想定されるが、限定はない。関連分野についての調査を行うことにより、自ら研究テーマを設定し、研究目的を達成するための道筋も自ら考え、研究・開発を行い、試行錯誤を繰り返し、最終的に成果を卒業論文としてまとめる。

- ・卒業研究 1 では、卒業研究を行う上で必要な知識の取得や学習を行い、卒業研究のテーマを決定する。
- ・卒業研究 2 では、各自で決定した卒業研究テーマについて、調査や製作および発表を行う。
- ・卒業研究 3 では、各自の卒業研究テーマに関する調査と製作および発表を行う。
- ・卒業研究 4 では、各自の卒業研究テーマに関する調査と製作を行い、研究成果をまとめて発表する。
- ・卒業論文では、各自の卒業研究テーマに関する成果をまとめて論文として作成し発表する。

研究内容

卒業研究 1：卒業研究に必要な基礎知識の習得と、卒業研究テーマの決定を行う。

- ・プレゼン手法や論文の書き方および研究の進め方の学習
- ・プログラミング等の基礎知識の学習
- ・各自が興味を持った分野に関する調査と発表
- ・研究テーマの決定と計画書の作成（プレゼンおよびレポート提出）

卒業研究 2：各自決定した卒業研究テーマに関する調査と発表および製作を行う。

- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・研究テーマに関する調査や製作
- ・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出）
- ・4年生の卒業研究発表会に参加（質問、レポート提出）

卒業研究 3：各自の卒業研究テーマに関する調査と発表および製作を行う。

- ・研究テーマに関する調査や製作
- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出）

卒業研究 4：卒業研究テーマに関する調査と発表および製作と、研究成果のまとめを行う。

- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・研究テーマに関する調査や製作
- ・研究室内における成果発表会
- ・卒業論文の執筆と添削
- ・卒業論文の発表の練習と本番発表
- ・卒業論文データベースへの登録

卒業論文：卒業研究の調査と発表および製作を行なながら、成果をまとめて論文として作成し、発表を行う。

- ・研究テーマ決定の計画書や、中間報告、成果報告の内容をまとめていく。
- ・論文の提出、発表会での発表、データベース登録の3つが単位取得の条件となる。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究 1：参加態度（40%）、報告・発表（30%）、提出レポート（30%）により評価。

卒業研究 2：参加態度（40%）、報告・発表（30%）、提出レポート（30%）により評価。

卒業研究 3：参加態度（40%）、報告・発表（30%）、提出レポート（30%）により評価。

卒業研究 4：参加態度（40%）、報告・発表（30%）、提出レポート（30%）により評価。

卒業論文：論文（60%）、発表（40%）により評価。

（論文：新規性、独創性、有用性、完成度による。発表：内容、わかりやすさ、態度、質疑応答の的確さによる。）

卒業研究活動についての留意事項

- ・プログラミングを用いた卒業研究を行うことが多いので、プログラミングに関する演習や講義を受講しておくことが望ましい。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

学習到達目標

- ・自ら問題を設定し、計画を立て、情報を収集して考察・製作することができる。
- ・問題について、自らの見解を加えて論文として取りまとめ、発表することができるようになる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
		2	ゼミ・卒研(後期)	【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
卒業研究 4	佐々木 桐子			【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

C 分野

目的と研究対象分野

身边にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化し、改善する方法を習得します。具体的には、生産、物流、道路交通、病院、銀行業務などのシステムを調査・分析し、離散系シミュレーション言語を用いてシミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験をおこない、改善策を検討します。

のために卒業研究 4 では、研究対象システムのシミュレーションモデルの構築、実験、比較・分析をおこないます。

【関連するディプロマポリシー】

- ・健全な社会生活を営むための常識持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。
- ・情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。
- ・自主的・計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること。

研究内容

研究対象システムのシミュレーションモデルの構築、実験、比較・分析。

- ① 研究対象システムのシミュレーションモデルを構築。
- ② 研究対象システムのシミュレーション実験。
- ③ 改善案（代替案）の比較・分析およびその結果の成果発表。

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

成績物（実験・比較・分析結果）：50 点、発表会：50 点により評価します。

＜発表会のフィードバックについて＞

発表会の都度、講評をおこないます。

卒業研究活動についての留意事項

冬期休業期間中も継続して研究活動をおこないます。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

学習到達目標

現実の問題に対して、適切な道具（離散系シミュレーション言語）を適時的確に使い、問題解決プロセスを適用し、結果を正しく解釈し、研究成果を適切に表現できる能力を育成する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	佐々木 宏之	2	ゼミ・卒研(後期)		専門	必修	4年
					専門	必修	4年
					専門	必修	4年

分野

身近な問題を「心理学」の視点から科学的、客観的に分析することにより、人間の認知特性を理解する。

【ディプロマポリシーとの関連】①健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。②自主的、計画的に情報をを集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。

目的と研究対象分野

心理学は、情報、経営のいずれとも関わりの深い領域である。たとえば、使いやすい情報システムを設計するためには人間の基本的な認知特性を理解する必要がある。また、組織の運営には人間の社会場面での振る舞いを理解する必要がある。本研究室ではこうした人間の様々な心や行動のはたらきとそのしくみを科学的、客観的に分析する方法について学ぶ。

卒業研究 4 では、実験・調査の実施、研究成果の報告をとおして、研究室のメンバーと自分自身の研究の内容について議論することにより、実験や調査の方法、データ分析の方法を洗練させるとともに、研究成果をわかりやすく論文や発表の形式で伝える技術を磨く。

研究内容

卒業研究をとおして論理的・批判的な思考能力を養う。

①実験・調査の実施

各研究計画に基づいて、実験・調査を行い、データ収集を図る。

②研究の進捗状況についての報告

実験・調査で得られた結果の進捗状況をまとめて、Power Pointによるプレゼンをおこなう。

発表スライドは、タイトル・目的・仮説・方法・結果・考察から構成される。

発表や発表資料の内容について、研究室のメンバーが全員で議論し、よりわかりやすく伝えるための提案をする。

成績評価

【成績評価】実験・調査への取り組み (80%)、研究内容 (10%)、進捗状況の発表 (10%)

卒業研究活動についての留意事項

特になし。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

学習到達目標

自ら問題を設定し、問題を解決するための情報収集能力や実験遂行能力、データの統計的解析能力を養う。さらに、得られた実験成果を論文にまとめ、発表する能力を育成する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	土屋 翔	2	ゼミ・卒研(後期)		専門	必修	4年
					専門	必修	4年
					専門	必修	4年

分野

C 分野

目的と研究対象分野

本研究室では、経営学理論や方法論などの学習を通して、多様な視点を持つことを目的とします。今自分が見えているモノが本当なのか、本物なのか、違うところからみたら全く違うモノに見えるのではないか、といった疑問を持ち続けてください。つまり、①内在的批判精神を養います。しかし、内在的批判精神といっても、論理的に展開することが求められます。感情一辺倒では、誰も納得してくれません。自身が、今どの立場で意見述べているのか、意見を述べることによりどのような影響があるのか、を隨時考えながら展開する力を養います。

では、内在的批判精神を養うために基本的な理論理解から始めます。研究書の指定ページをまとめて発表するなどです。この時に、1) 物事を端的にまとめる力、

2) 端的に発表する力、をつけてもらいます。

研究対象は、理論や方法論を身に付けた前提で、時事問題、学生自身が興味があること、そのほか新潟の持続的発展に関わること、農業経営等、を中心として相談の上で決めて行きます。とくに、農業に関心があると楽しく研究活動ができると思います。

研究内容

卒業研究 4 は、卒業研究 1、2 に基づいて行います。内容は同じですが、よりレベルアップした内容です。①時事問題に関する議論

②研究書をまとめて発表する

③他大学とのディベート大会

④他機関への懸賞論文やビジネスプラン提案等

⑤農業における体験、経営学視点からの視察→問題を発見し解決方法提案

⑥研究合宿

⑦論文作成に関わる方法論、目次作成の整理

⑧新潟産農産物の海外展開についての議論と提案

⑨その他

本研究室における卒業研究は、教員と学生とが相互支援によって発展していきます。

多様な視点を持ち、立体的な思考ができるよう一緒に頑張りましょう。

成績評価

①講義貢献度 40%、②発表（まとめる力、発表する力）20%、③時間外活動等における貢献度 40%

卒業研究活動についての留意事項

①ゼミ内でメーリングリストを作り、情報共有をします。

②宿題等はしっかりと提出することが最低条件です。

③本研究室で後輩ができた場合、指導してもらいます。

④基本的に卒業研究で決まった内容（スケジュール）は、余程のことがない限り出席、参加してもらいます。

⑤教員に対する相談は随时受け付けています。些細なこと（小さな悩み）でもすぐに相談してください。

⑥予習復習に 4 時間をしっかりと確保してください。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

学習到達目標

将来、社会で活躍するために必要な多様な視点の持つ。その上で、内在的批判精神により洞察力や考察力を鍛えることができる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	近山 英輔	2	ゼミ・卒研(後期)	【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

D、B分野

目的と研究対象分野

生命は膨大な数の組織化された生体分子が協同的に相互作用し、知的情報処理を行うシステムである。その仕組みには謎の部分がある。その謎に、コンピュータ、ハードウェア開発、実験、理論分析等でアプローチする研究を行うことを中心にしている。キーワード：細胞シミュレーション、専用計算機、核磁気共鳴（NMR）、磁気共鳴イメージング（MRI）、顕微鏡、生物情報科学（バイオインフォマティクス）、システム生物学、脳、ニューラルネットワーク、ロボット、食品科学。

研究内容

卒業研究テーマに応じて、調査、分析、開発、実験などを行い、卒業研究中間発表会を行う。

毎回予習・復習合わせて4時間相当の課題を提出する。

(卒業研究テーマの例)

- ・3次元細胞シミュレーションに関する応力テンソル可視化プログラム作成
- ・実験室情報管理システムのNMRスペクトル表示プログラム作成
- ・NMRによるアイビーの成分分析
- ・ロボットハンドのプログラム制御

成績評価

演習点（50%）+発表点（50%）+成果点（追加点）で評価する。演習点は研究進捗の内容に対応させ、発表点は進捗発表の内容に対応させ、成果点は、原著論文の一部に貢献できる研究成果があった場合20点、それが少しあった場合10点、それが出つつある場合5点、それがない場合0点とする。総計で100点を超えた場合100点とする。

卒業研究活動についての留意事項

- ・進捗を教員に報告して、相談しながら研究を進めることができます。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	研究所での実務経験を基にして研究指導する。	○

学習到達目標

- ・研究とは何かを説明することができる
- ・インターネット上や研究室に用意された資料を用いて、自発的に背景知識を勉強することができる
- ・研究室で用意されたガイドラインに従って、自発的に卒業論文を執筆することができる
- ・教員と協調・協力しながら自発的に研究に取り組むことができる
- ・打ち合わせ事項や研究のメモを研究ノートに取ることができる
- ・教員と協力しながら、研究データの分析と考察ができる
- ・分析データのグラフをエクセル等で作成することができる
- ・発表資料をワード、パワーポイントで作成することができる
- ・自分の研究内容を他人に説明することができる
- ・自分の研究内容を公の場で発表することができる
- ・自分の研究発表に対する質問に応答することができる
- ・他人の研究発表を理解することができる
- ・他人の研究発表に対し質問することができる
- ・文献の内容を他人に説明できる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	中田 豊久	2	ゼミ・卒研(後期)		専門	必修	4年
					専門	必修	4年
					専門	必修	4年

分野

D 分野

目的と研究対象分野

人々の様々な活動を支援するためのコンピュータシステム、またはプログラムについて研究する。まず自ら課題を見つけ、その課題を克服するためのシステムを設計、構築する。そして構築したシステムが本当に課題を克服できているかを評価する。自主的、計画的に自ら情報を集め、考察することが求められる。また、自ら行ったことを他者に分かりやすく説明するために、論文を記述して発表することを学ぶ。

研究内容

研究内容は、履修生と話し合いの中で決定していく。以下に示す内容は、その一例である。

卒業研究 1: 自ら設定した課題に取り組む

- 卒研テーマにつながる／つながらないを問わずに、気になることを 1 テーマ/2~3 週間の用量で進めていく。

卒業研究 2: 自ら設定した課題に取り組む

- 卒研テーマにつながる／つながらないを問わずに、気になることを 1 テーマ/2~3 週間の用量で進めていく。

卒業研究 3: 卒研テーマを意識し、自ら設定した課題に取り組む

- これまでに取り組んできたテーマを整理しつつ、卒研テーマについて考えていく。

卒業研究 4: 卒業論文: それぞれのテーマに従って研究の実施

- ゼミの時間中は卒研の進捗を話し、作業は主にゼミの時間外で個々人で実施する。

卒業論文を作成する。

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究 1: 課題の進み具合ではなく、取り組んだ時間に沿った評価を行う。

卒業研究 2: 課題の進み具合ではなく、取り組んだ時間に沿った評価を行う。

卒業研究 3: 課題の進み具合ではなく、取り組んだ時間に沿った評価を行う。

卒業研究 4: 卒業論文の内容、卒研発表によって評価する。

卒研の内容の変更に従って、履修者の同意のもとで評価基準を変更することがある。

卒業研究活動についての留意事項

<研究室配属の学生選択基準>

研究室配属の説明会で示す。主に重視することは、次の項目である。

- 情報論理の出席状況

これ以外の選択基準については、毎年、変更・調整をしているため、必ず研究室配属の説明会で、確認をするようにしてください。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
x		x

学習到達目標

- 自らテーマを決定し、考えながら進む力を身に付ける。
(卒研 1, 2, 3)
- 課題の問題点、解決策を整理し、何が出来るかを見極める力を付ける。
(卒研 1, 2, 3, 4)
- 課題の解決方法を、客観的に評価する方法を修得する。
(卒研 4)

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029						
授業科目	担当教員						
卒業研究 4	西山 茂	2	ゼミ・卒研(後期)	【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × × 専門 専門 専門	× × × × 必修 必修 必修	× × × × 4年 4年 4年
分野							

情報 A

目的と研究対象分野

- ① 卒業研究の意義は研究のプロセス（テーマの設定から成果の発表まで）を体得することにある。このプロセスは、研究限らず広くビジネスの一般でも極めて重要である。
- ② コンピュータを使ったシステムをソフトウェアシステムと呼ぶが、現代においてソフトウェアシステムビジネス及び個人生活の隅々にまでいきわたっている。
- ③ ソフトウェアシステムは、人間活動の一部をコンピュータに肩代わりさせるものであるため、人間の活動を正確に理解せずにソフトウェアシステムを作っても本来望んだように動作しない。また、人間とコンピュータは異なった原理で動作（行動）しているため、人間の活動に何の変更も加えずにコンピュータに肩代わりさせても、やはり本来望んだように動作しない。そこで、本研究室の卒業研究の主テーマは、次のように定める。
 (ア) 人間活動の理解。ただし、単に人間活動といった場合は、きわめて広範囲の活動を指すことになる。このため、本研究室卒業研究では、主としてビジネス活動に制約することとする。
 (イ) 人間活動とソフトウェアシステムの最適な関係に関する研究”である。ただし、単に人間活動といった場合は、きわめて広範囲の活動を指すことになる。
- ④ この枠組みの中で、各自研究テーマを設定し、問題を分析し、その解決案を提案し、その有効性を検証するという一連のプロセスを実行する。ただし、学生が独自の良いテーマを提案した場合、学生と西山の協議によりこれをテーマとすることも妨げない。
- ⑤ 卒業研究の最初に本研究室の研究の共通基盤となる“人間活動とソフトウェアシステムの係わり”をテーマに、人間活動にとってソフトウェアシステムとは何か、課題は何かを学ぶ。併せて、問題分析法、検討結果のまとめ方についても学ぶ。
- ⑥ 卒業研究のテーマは卒業研究の大枠の中で自分のアイディアや問題意識に基づいて選定する。卒業研究は、適切な課題設定、仮説設定・検証、各種手法（技法）を用いた問題分析・評価・整理によって実施する。
- ⑦ 研究成果は通常は「研究論文」にまとめる。新規事業的発想であれば「新規事業開発の事業計画書」にまとめる。

本授業は、以下のディプロマポリシーに関連する。

<情報システム学について理解し、情報システム領域の基本的な専門技術を修得していること。>

<自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。>

研究内容

各自の研究結果のとりまとめ

- ① 研究の進捗状況についての発表し、検討状況および検討内容に関して討論を行う。
 ② アンケート調査、インタビュー、シミュレーション実験、あるいは試作によって収集したデータを分析して問題点の所在を明らかにし、その解決案提示し（仮説）、さらにその有効性を実証的に検証する。
 ③ 各自の研究上の問題点とその解決策を研究室の卒論中間報告会等で報告し、相互にコメント・議論する。卒業論文の構成内容、文章表現など、研究のまとめ方と成果の発表については個別に指導する。また、優秀な研究は、情報システム学会等の研究発表会等への報告も視野に入れる。
 各授業ごとに指定、指摘されたことについては、事前、事後各2時間以上を費やして調査、検討をすること。

成績評価

- ・ 研究会（授業）における討論への参加態度（40%）
- ・ 設定テーマの妥当性、説明性（60%）

<フィードバック法>

・ 研究内容、方向性については授業の中で議論する。

卒業研究活動についての留意事項

卒業研究3の授業で、進捗管理、論文指導、発表指導を行う。このため、卒業研究3の集積は重視する。

また、次の点に留意すること。

1) 卒業研究1~3の期間は、卒業後のキャリア形成の第一歩を決める大事な時期もある。そこで卒業研究では「研究会（授業）」で演習を行いながら、各自の「卒業研究遂行・卒業論文完成」と「進路決定・就職達成」を並行して指導する。これらの何れも、各人が自動的に自分の責任において行い、目標達成まで努力する。

2) 卒業研究3の履修生と卒業研究1の履修生が交流する機会を設け、テーマ設定や研究の進め方に関して意見交換を行い、相互に刺激を受けることができるようとする。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	担当教員は、企業の研究開発部門および営業部門、自治体の情報企画部門で実務経験がある。	○

学習到達目標

- ① 自ら情報を収集・整理し、問題を設定する。②スケジュールを立て、仮説を立てて問題解決にあたる。③解決法を論理的に考察するか、あるいは製作・実験等を行った結果に自らの見解を加えて解決法を案出する。④これらの解決法を整理された文章に記述する（論文、新規事業企画）。⑤論文、新規事業計画を発表する。⑥自己及び他者の発表に対して有効にコミュニケーションができる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029						
授業科目	担当教員						
卒業研究 4	藤瀬 武彦						
				【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

経営コース (B 分野 : 人間と社会)

目的と研究対象分野

本研究室では健康スポーツ科学関連の分野について研究指導を行い、今日の高齢社会や情報社会で活躍するための知識を身に付ける。その内容は私たち人間にとって最も身近な「身体の組成や機能」に関する研究、「健康体力づくり」や「競技スポーツ」に関する研究、さらには私たちの生活に関わる「スマホ依存」「医療システム」あるいは「道路交通法」などの問題についての研究にまで及ぶ。この授業では研究目的や研究方法に従って、実験・測定・アンケートによって必要なデータを収集し、統計的手法を用いて分析することなどを行い、最終的に卒業論文を完成させることとする。特に卒業研究 4 では、データ収集を完了して分析を行い図表を作成する。そして、結果、考察、及びまとめの文章を執筆して卒業論文を完成させる。さらに PowerPoint によるプレゼンテーション資料を作成して卒業論文発表会で発表する。

研究内容

- 1) 卒業研究 4 のガイダンス及び卒論執筆要領
- 2) データ収集と文章（緒言、方法、結果）の加筆修正①
- 3) データ収集と文章（緒言、方法、結果）の加筆修正②
- 4) データ収集と文章（緒言、方法、結果）の加筆修正③
- 5) 第1回経過報告会（データを図表に示した資料による）
- 6) データ収集と文章（結果、考察）の加筆修正④
- 7) データ収集と文章（結果、考察）の加筆修正⑤
- 8) 第2回経過報告会の資料作成
- 9) 第2回経過報告会
- 10) 論文の文章全体や書式の修正①
- 11) 論文の文章全体や書式の修正②（提出）
- 12) 発表資料の作成①
- 13) 発表資料の作成②
- 14) 卒業論文発表会
- 15) 卒業論文の要旨の修正と登録（本文も）

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

授業中の課題や質疑応答などによる演習点 60 点（遅刻等による減点あり）及び課題点（レポート等）40 点により評価する。

卒業研究活動についての留意事項

できる限り遅刻や無断欠席（事前に本人が届を出す）をしないこと、課題の提出期限を厳守すること、卒論のデータ収集や執筆に対して、最後まで諦めないで全力で取り組んでもらいたい。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		×

学習到達目標

F : 文献考証等をしっかり行い、自己のオリジナルデータを収集し、研究として意義のあるものを追求する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	藤田 晴啓	2	ゼミ・卒研(後期)		×	×	×
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
					専門	必修	4年
					専門	必修	4年

分野

A B

目的と研究対象分野

研究対象や分野は特に固定しません。

教員の専門分野以外でも、テーマは学生側から提案できます。

これまで誰も思いつかなかったような、新たな視点やアイデアが卒業研究に活かされる場合もあります。

なぜ人はそのような行為をするのか、広く社会をみて興味ある現象を対象にした研究も可能です。

研究内容

卒論テーマさがしからはじめましょう。 最初に自分の興味のあるテーマ、あるいは具体的なテーマがなければ興味のある分野でも構いません。 3つぐらいリストアップしてみましょう。 そして、そのテーマや分野から先行研究をさがします。

先行研究は読者の興味を引く読みやすい「トピック本」「ネタ本」ではなく、特定の研究テーマについて事実にもとづきまとめた著書です。 当然他のおおくの研究論文を引用しています。 結構この先行研究をさがすのが慣れないと難しいものです。

テーマや興味のある分野に近い先行研究論文がみつかったら、次にそれにざっと目をとおし、その研究で新たにわかったことについてA4以上で要約を作成してみましょう。

以上をテーマ分野を変えたり、あるいは同じ分野テーマで先行研究を変えて要約作成を3回くらい繰り返します。 だんだんと、要約作成に慣れてくれたしめたものです。

卒業研究のスケジュール、研究の目的、方法等の卒業論文にかかる要点を学習します。 基本的に学生が自ら先行研究調査、情報収集、現地調査、解析、考察ができるテーマ研究内容であればどのような題材でも受け付け、分野は問いません。 卒研生が自らテーマをみつけるのが難しい場合は、具体的な題材を教員が提供します。

提案できる卒論テーマ・題材の分野

- ① ホログラム・MR技術によるビジネス展開
- ② 機械学習/ディープラーニングによるビジネスイノベーション
- ③ χ^2 乗検定によるヒトの行動や性格関連性の研究
- ④ コンジョイント分析による顧客選考性の研究
- ⑤ ホログラクションと舞台イベントのコラボレーション

毎回の学習時間：先行研究の調査読破等卒論を執筆する準備、論文執筆も含め、予習復習に4時間は必要です

成績評価

卒論執筆提出分5% × 13回、中間発表会および卒論発表会の内容にて評価します。

卒論データベース登録、卒論執筆日誌も卒業の必須条件となります。

卒業研究活動についての留意事項

3年次にプロジェクトを全員で企画し、グループワークによる意思疎通能力および責任分担力の育成を目指します。

卒研では教員と対面で卒業研究進捗状況の確認・指導を行います。 卒研3および4時間内での卒論指導時間が不足する場合は、教員・卒研生が空きの時限に「サブ卒研」の時間を設けます。

卒研生には準社会人として接します。 責任と自覚をもって卒研に参加してください。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

学習到達目標

- 1 社会人として最も重要な対人コミュニケーションを育成する
- 2 卒研プロジェクトに参加することにより、地域理解交流を深め、ヒトの連携を強める
- 3 卒業研究を遂行することにより科学的な考え方を身につける

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	藤田 美幸	2	ゼミ・卒研(後期)	【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

C 分野：経営と組織

目的と研究対象分野

本研究室では、企業や組織の商品やサービスの企画を学びます。産官学共同プロジェクトも行ないます。

商品・サービス企画とは、顧客の「感動」をデザインする知的格闘技です。

企業や組織が成長するに欠かせない企画力を身につけることを目標としています。

なお、この科目は「自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力を養う」ための科目のひとつになります。

研究内容

<企画力を身につけるため、取り組む課題>

商品（サービス）は、顧客の「感動」を生み出します。そのため顧客志向が大切になります。

(1) 顧客志向を探るには、思い込みでなく実際に生じているデータを集め、提示します（エビデンス）。

二次データ（統計資料や既存の文献など、他人が集めた結果として既にこの世に存在するデータ）はもちろんのこと、出来る限り一次データ（自分で集めたデータ）を集めます。

また、企業の実データを活用することがあります。

(2) 商品（サービス）の評価をおこないます。

(3) アイデアを発想し選択します。

(4) 3で選択されたアイデアについて構成する要素の最適な組み合わせを探ります。

(5) 成果物として、発表会等でパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行い、研究報告書や調査報告書を提出します。

* 調査方法やその分析方法については、場合に応じて講義の中でレクチャーしていきます。

<卒業研究/ゼミナール共通>

グループに分かれ、産官学共同プロジェクトをおこない、結果をまとめて発表会にて報告します。

* プロジェクト内容は学生の興味に応じて変更する場合があります。

* 他学年、他大学、企業、団体との共同プロジェクトの場合もあります。

<卒業研究 1, 2/ゼミナール 1, 2 (3年前後期)>

(1) 文献調査

・図書館などを利用し、各テーマについての学術論文や書籍を検索します。

・各テーマに関連する学術論文を読み、知識を深めます。

(2) 卒業研究のテーマの選択

・複数の学術論文を読み、以下の点についてまとめた卒業研究計画書を作成します。

・タイトル

・研究目的：学術的背景、研究で明らかにする点、研究の特色と独創性、仮説

・研究方法：調査内容、手続き、分析方法

・引用文献

<卒業研究 3/ゼミナール 3 (4年前期)>

(1) 研究計画の発表

・卒業研究 2 /ゼミナール 2 の終了時までに作成した研究計画書の内容について発表し、議論します。

同研究室や他研究室に対して、自分自身の研究の背景、目的、仮説、方法、予測される結果について、わかりやすく説明します。

・発表者以外のメンバーは、発表者の研究計画の問題点を指摘し、問題を解決するための方法を提案します。

(2) 研究の進捗状況についての報告

・発表スライドは、タイトル・目的・仮説・方法・結果・考察から構成されます。

・発表や発表資料の内容について、研究室全員で議論し、よりわかりやすく伝えるための提案をします。

(3) 中間発表

・7月に卒業研究の中間発表を実施します。

(4) 卒研進捗報告書を提出してもらいます。

<卒業研究 4/ゼミナール 4 (4年後期)>

・卒業研究の内容を研究室メンバーが相互に確認しコメントします。

・11月初旬に卒業研究発表会の予行をします。

・卒業研究進捗報告書を提出してもらいます

<卒業論文>

・30 ページ以上、3万文字以上書いてもらいます。

・卒業論文の製本と卒業論文登録データの作成をします。

・卒業論文発表会原稿の作成をします。

・文章の修正個所のまとめをします。

・論理的文章作成のための個人別資料作成をします。

・1月に卒業論文発表会を行います。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究における討論、報告、発表（30点）、提出課題レポート（30点）、プロジェクト参加度（40点）により評価する。

卒業研究活動についての留意事項

<休業期間中も継続して研究活動をおこなうことが求められます。>

・クラウド上のグループワークの中で情報交換を行います。

・ゼミ生は、積極的にディスカッションし参画することが求められます。

・卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡してください。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わなければ卒業論文が完成しなくても責任は持ちません。

・卒業論文の提出、卒業論文発表会での発表、卒業論文のDB登録の全てを行わないと単位を与えません。

・卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡をすること。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わなければ卒業論文が完成しなくても責任は持ちません。

・企業や団体との産官学連携プロジェクトを行うことがあります。この場合は、企業の実データを活用する場合があります。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

学習到達目標

卒業研究を通じ、社会人への重大なパスポートとなる企業や組織では不可欠の「感動」を商品化する能力、すなわち（一人で）調査・分析・考察をし、企画力を身につけることを目標とします。

具体的には、以下の3つが学習到達目標です。

(1) コミュニケーション能力

異学年や学外の方と共に課題に取り組むこと。それにより自分の考えを表現する力を身につけることを目標とします。

(2) 実践的な能力

共創により、さまざまな課題に取り組み、学内外で表現することで実践力を身につけることを目標とします。

(3) 発想力・企画力・実行力

課題解決の積み重ねにより、具体的なプランとして提起する力を身につけることを目標とします。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410029	X-13-B-3-410029			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
卒業研究 4	山下 功	2	ゼミ・卒研(後期)		専門	必修	4年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

27年度以降の入学生は分野を定めない。

目的と研究対象分野

山下研究室では、管理会計と原価計算を中心とした会計学について研究します。

管理会計は、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。なお、主な周辺学問領域として、原価計算、簿記学、経営学、生産管理など挙げられます。管理会計で最も大切なことは、「会計情報を利用する」ことです。そして、企業の目標とは究極的には利益を獲得することです。授業では、会計情報を利用してより多くの利益を獲得する方法について議論します。

【関連するディプロマポリシー(学位授与方針)】自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。

研究内容

- ・卒業論文の構成及び内容について、個別に指導を行います。
- ・卒業論文発表会に向けての指導を行います。

【アクティブラーニングの実施】発表と討議を実施します。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

課題レポート80%、報告及び討論20%で評価します。

卒業研究活動についての留意事項

山下研究室では、以下のような学生、またはこれから以下のようにになりたい学生を求めていきます。

- ・世の中の様々な現象に深く関心を持っている人。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。
- ・世の中の流行に惑わされない人。自分自身の考え方を持つことが大切です。
- ・自動車・電機・機械などの製造業(物づくり)が日本の産業の中心であると考えている人。情報、金融、その他のサービス業、農業などももちろん重要なですが、それらの産業は、製造業が築いた確固たる土台の上で成立っています。そして、管理会計や原価計算の基本は製造業です。
- ・管理会計を真剣に学ぼうという意欲のある人。今現在の簿記や会計に関する知識や資格の有無は、選考には影響しません。但し、研究室配属後は勉強してもらいます。

山下研究室に配属が決定した後の留意事項は、以下のとおりです。

- ・自習または財務会計の授業でビジネス会計検定試験3級の学習を行い、会計学の基本的な知識を修得してください。
- ・山下担当の講義科目である、財務会計と管理会計を必ず履修してください。
- ・やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、事前に連絡をしてください。無断欠席は好ましくありません。授業に毎回出席することが、管理会計に限らず、専門的な知識を身につけることの早道です。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
○	上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務経験を基に会計・経営について指導します。	○

学習到達目標

管理会計について理解し、深く関心を持ち、大学の中だけではなく日常生活全般においても知的好奇心を絶えずはたらかせて、その中から自分自身が疑問に思っている問題点を明らかにし、それを管理会計の論文として表現できるようになることを目標とします。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習